

未来へつながる軌跡

点・線・面で描く、トヨタ75年間の車両系統図

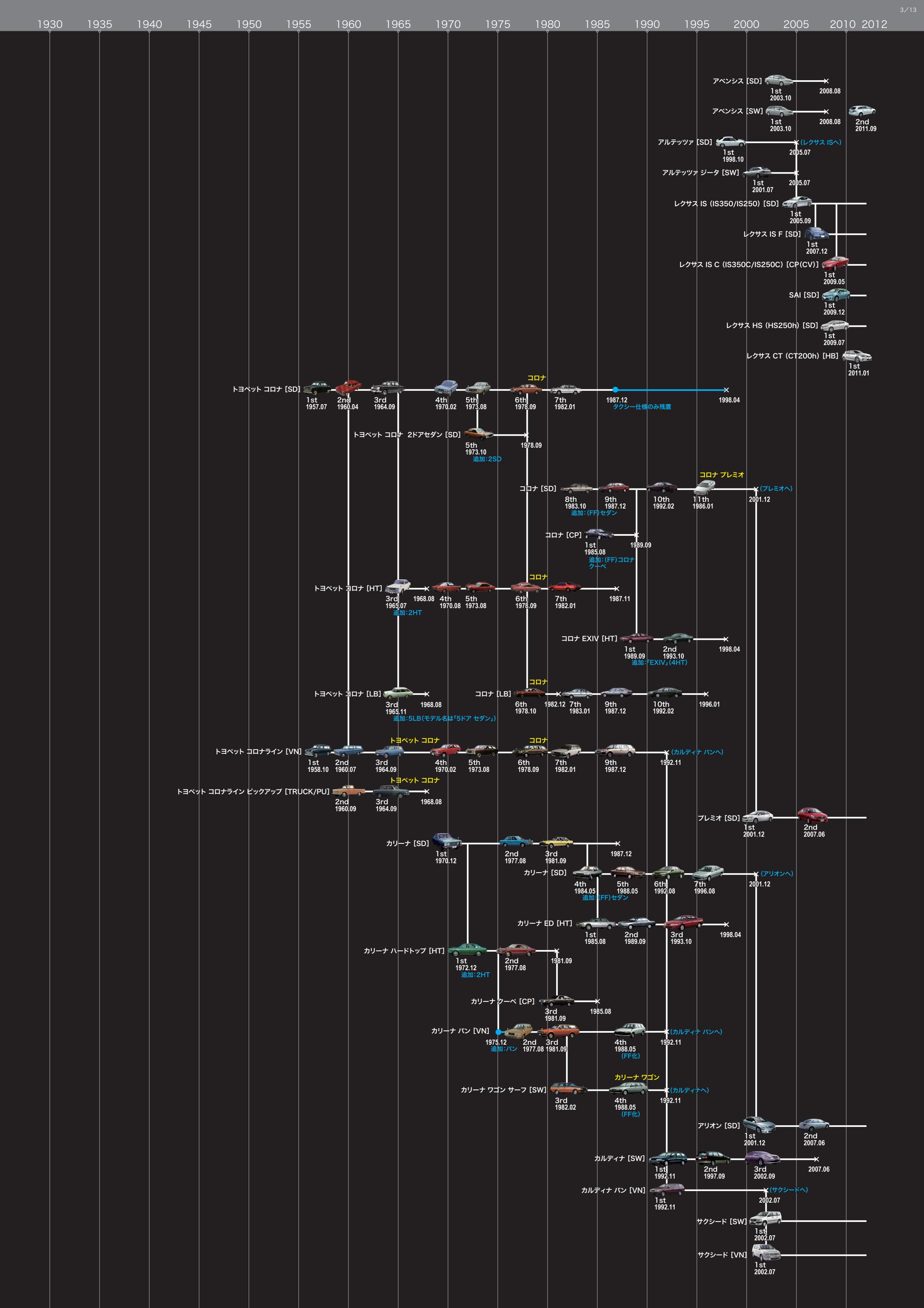
「お客様の笑顔のために、もっといいクルマをつくりたい」

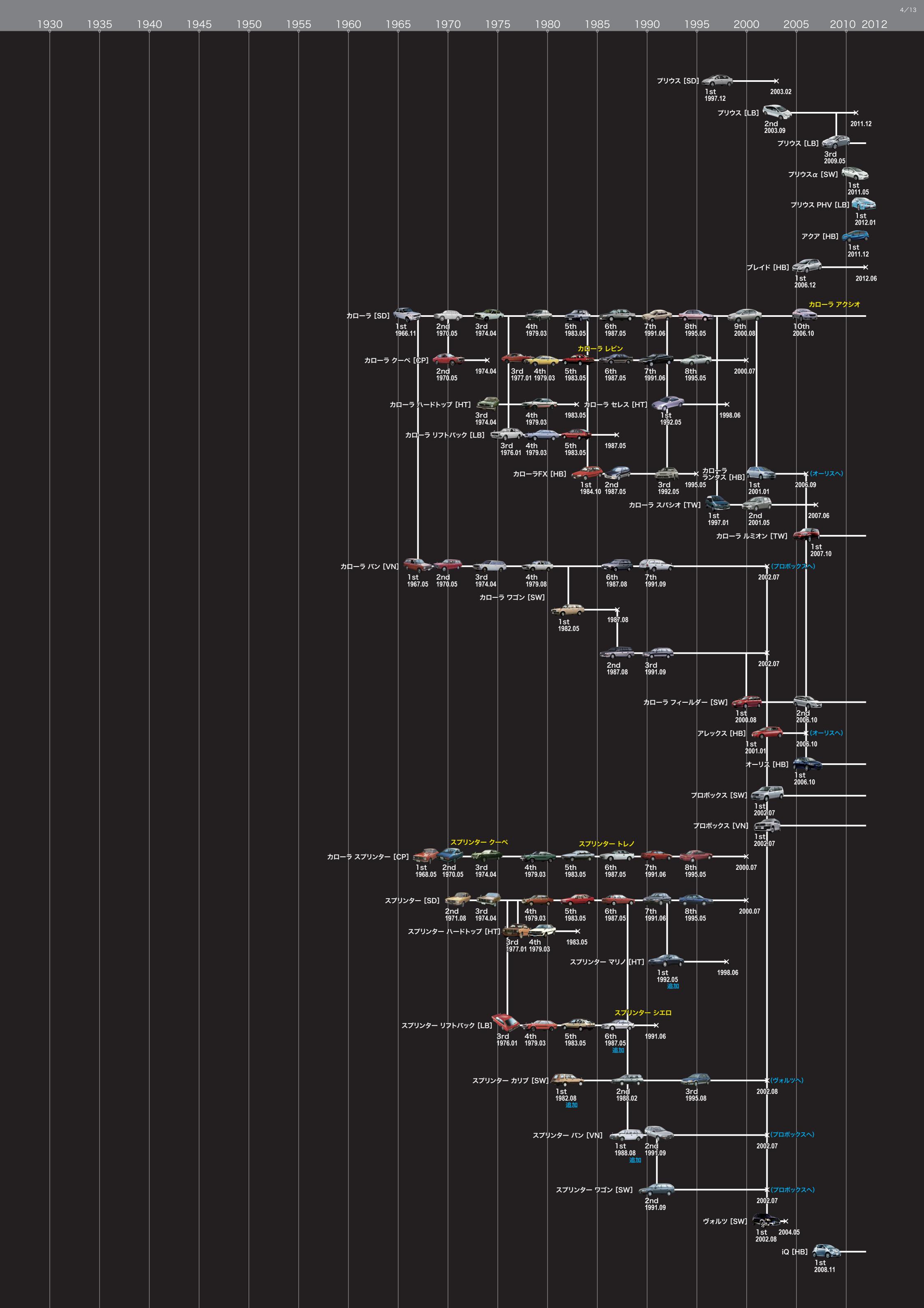
トヨタは常に、目の前のクルマづくりを真剣に行なってきました。 クルマづくりは決して平坦な道のりではありません。 試行錯誤を重ねながら、一台一台、部品一つひとつ、 情熱を持ってクルマづくりをしてきました。

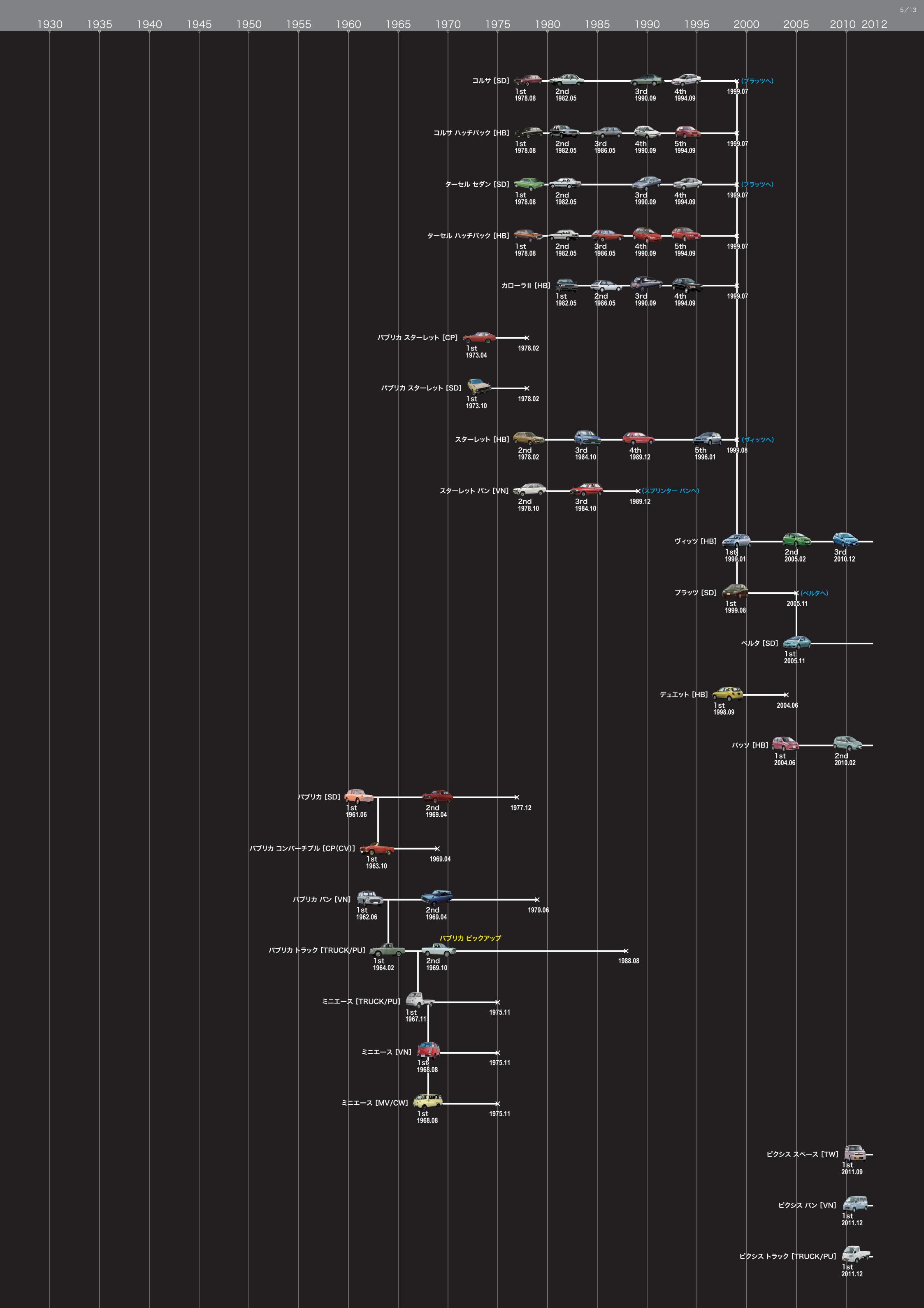
その"一瞬"は、「点」ですが、 一台のクルマは、次の一台へと時を重ね、 「線」となって成長していきます。 時代とともに、社会とともに、国を越え、世界中のお客様とともに、 クルマづくりを重ねてきた軌跡は、「面」となります。

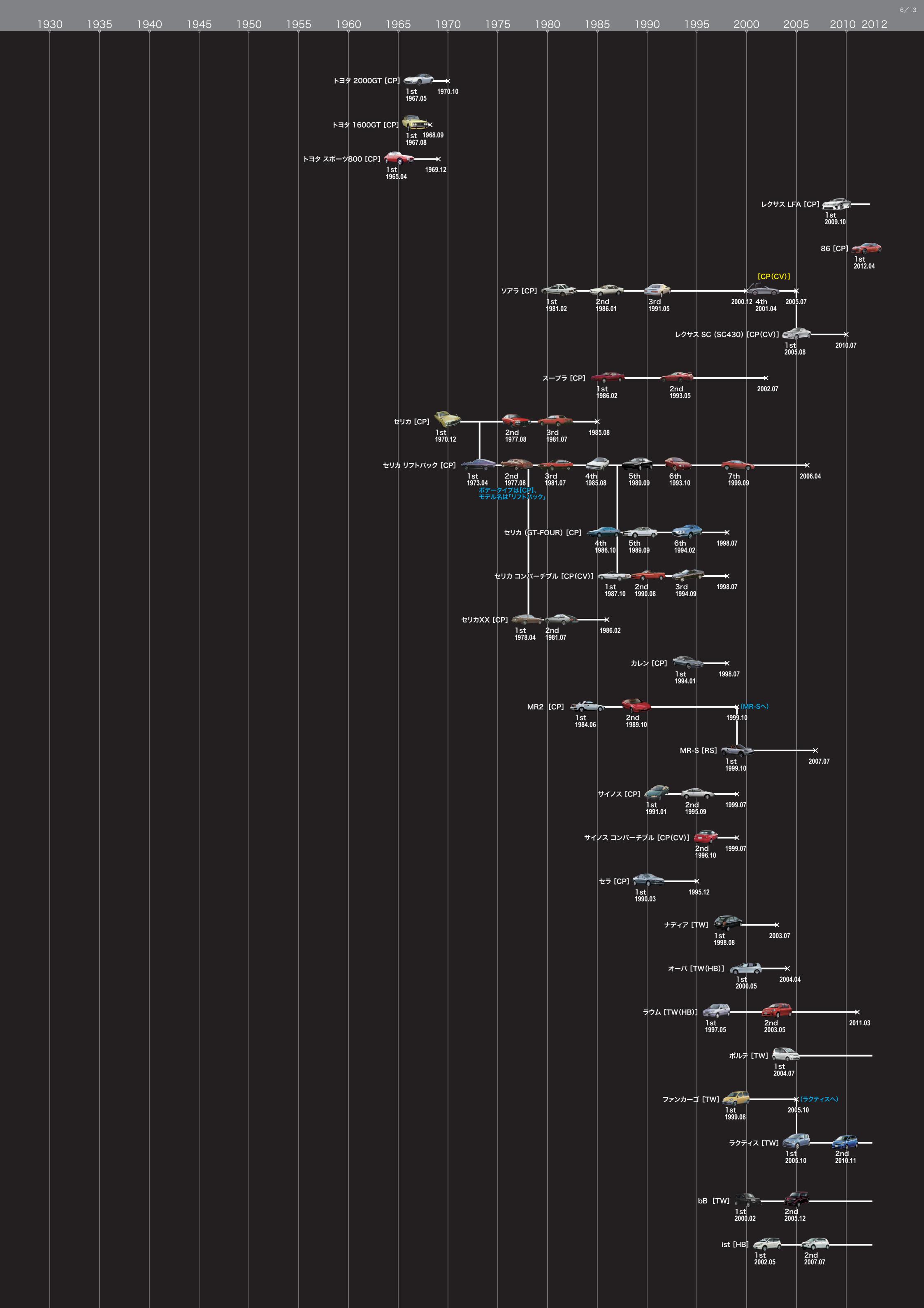
「車両系統図」は、

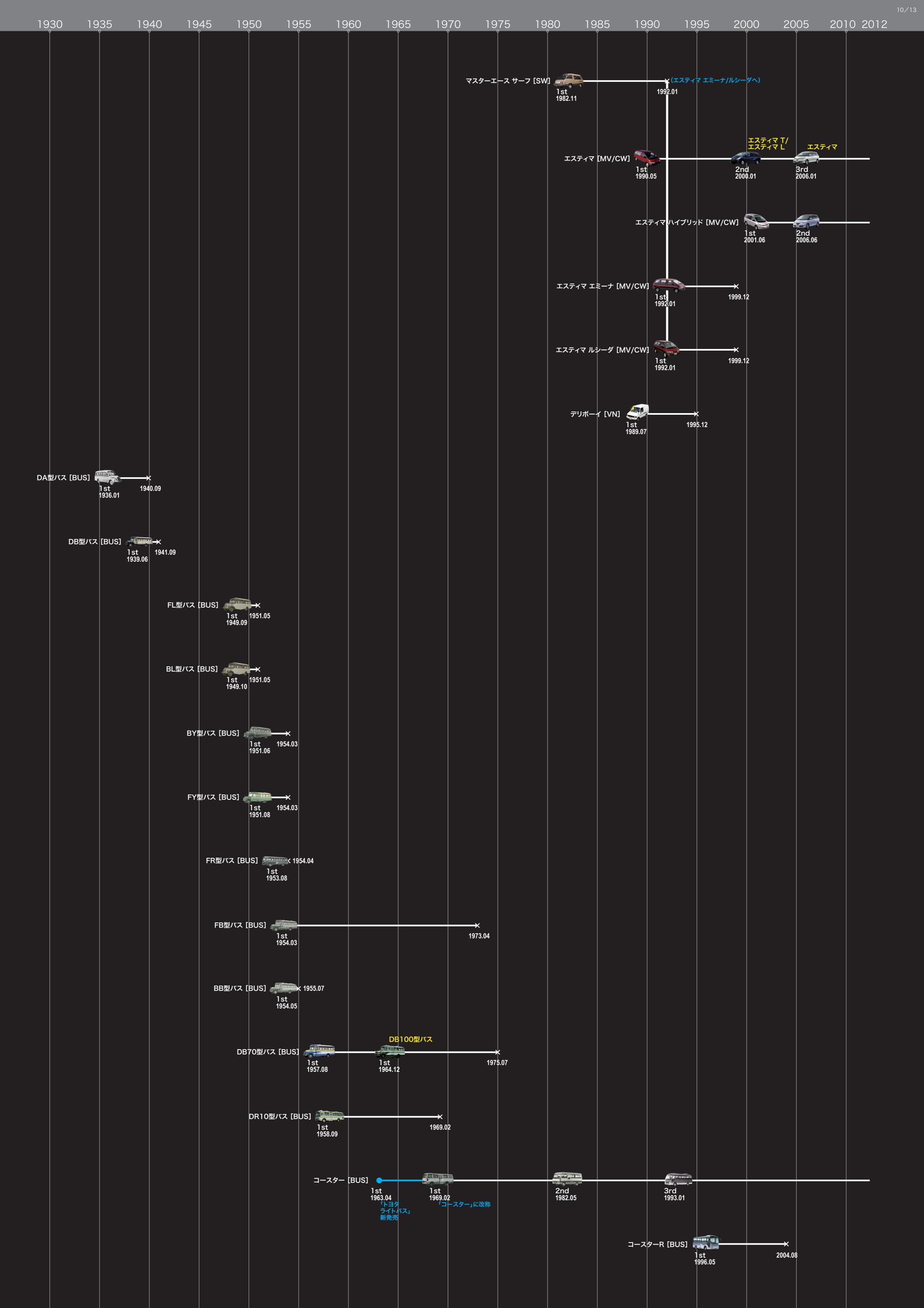
お客様の笑顔のために歩んできた、従業員一人ひとりの想い・情熱、 そして、その軌跡をカタチにしたい、と考え、描いています。

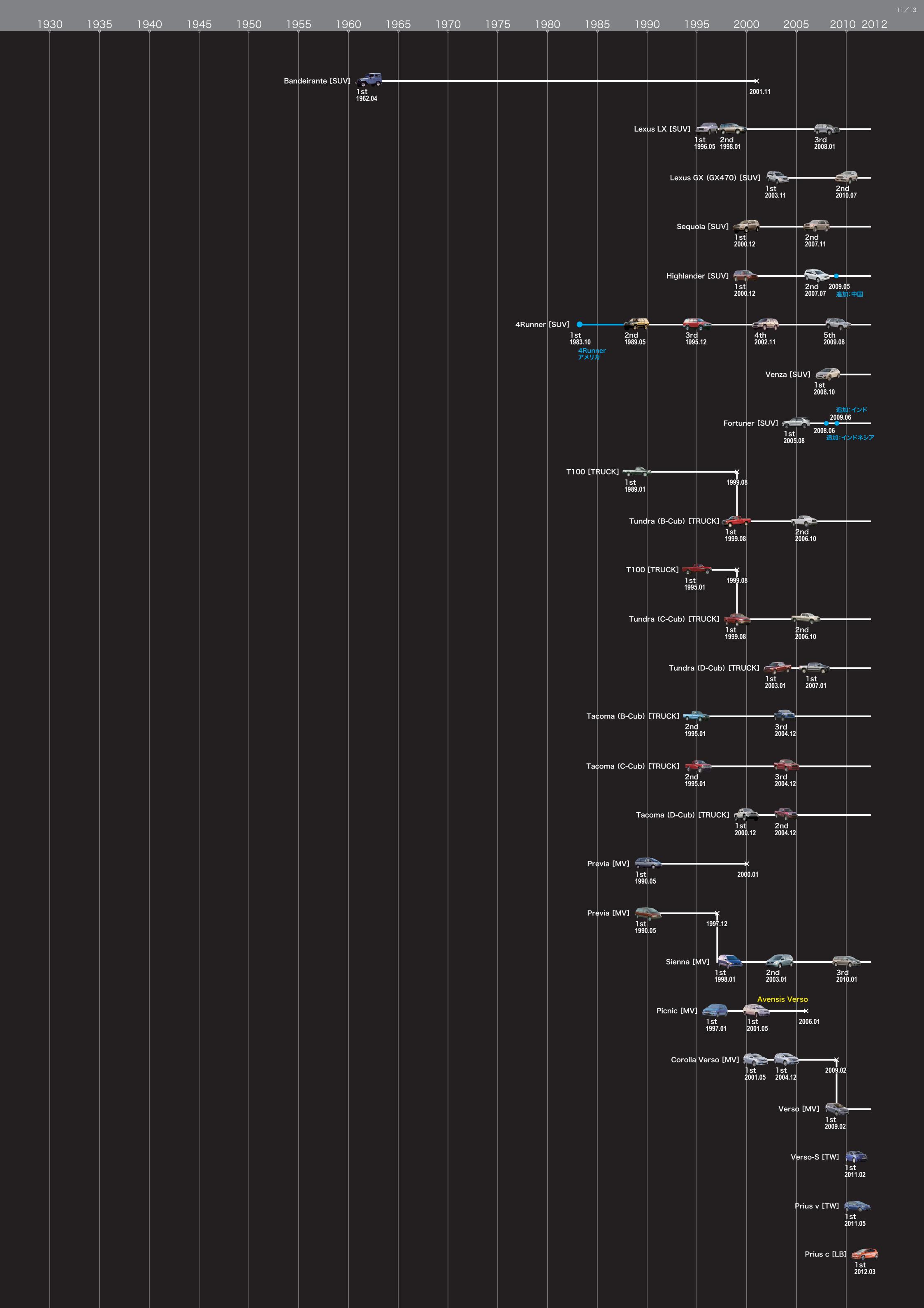


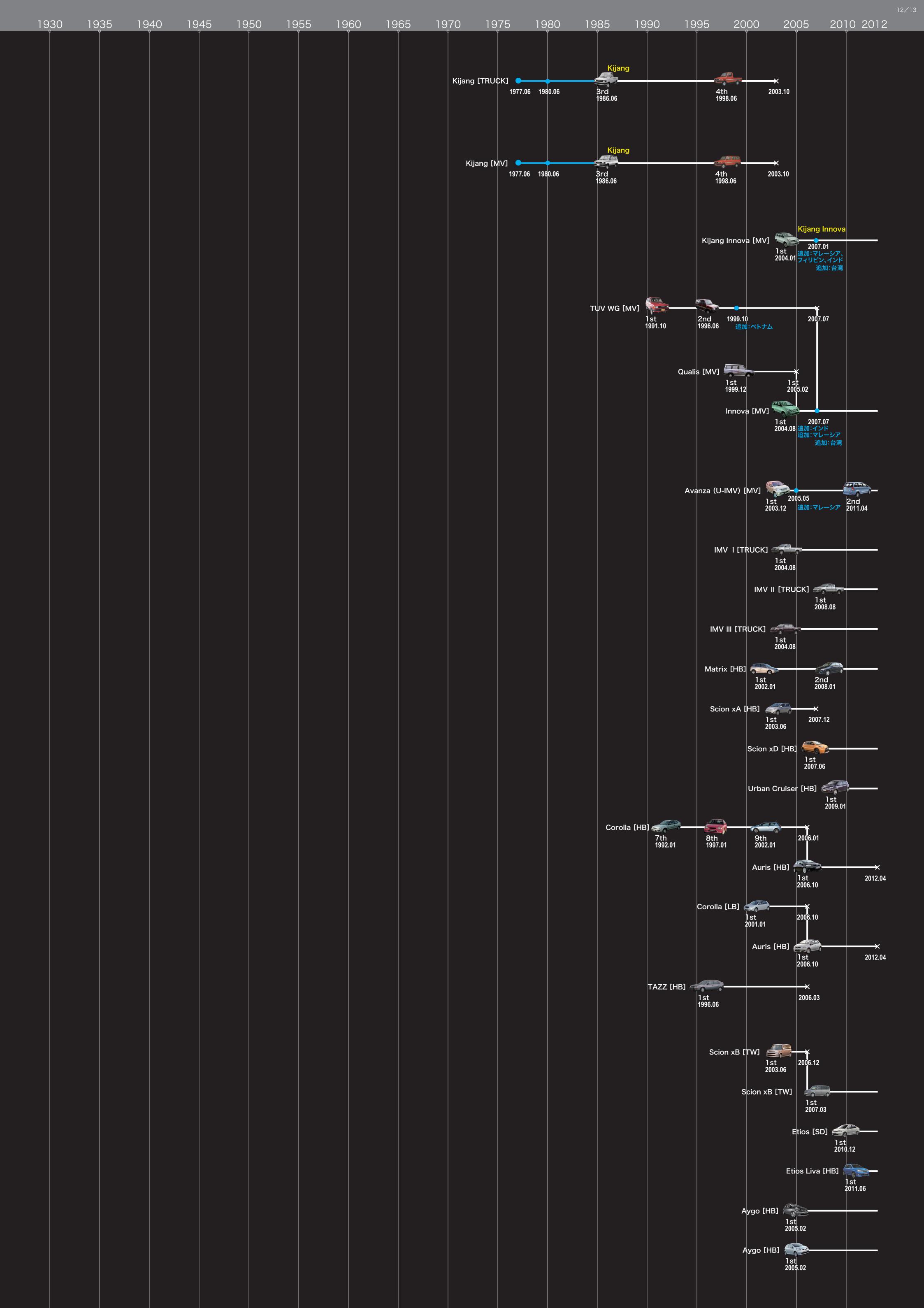


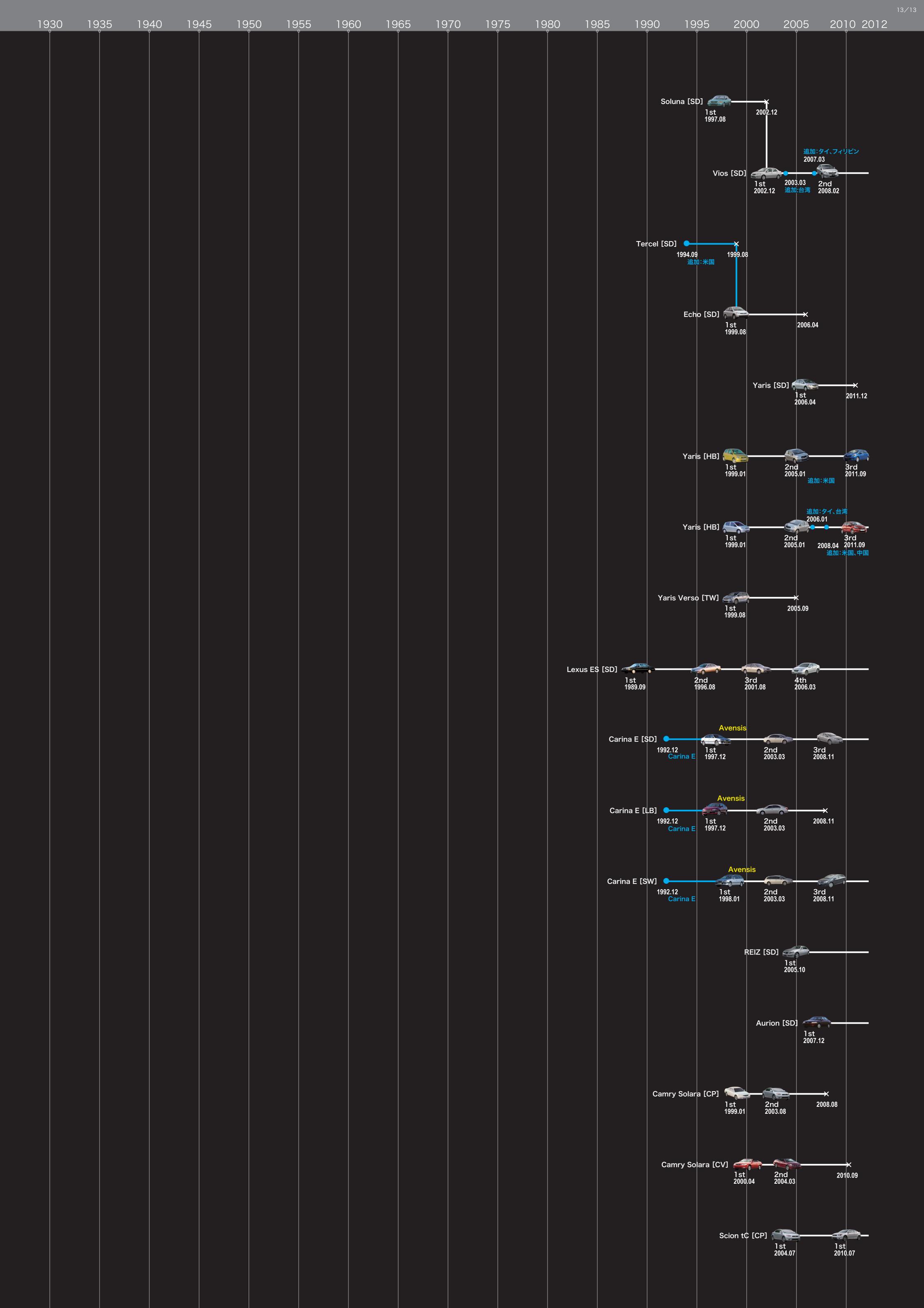












凡例·注記

【凡例】

(1) トヨタは、1935 年(昭和 10 年)11 月の「G1 型トラック」の発表から 2012 年現在に至るまで、国内で約 1 億 4,500 万台(海外生産 もあわせると、約 2 億台)の車両を生産してきた。(2012 年 6 月末時点)

「車両系統図」とは、これらトヨタ車およびレクサス車の 75 年間の変遷を、主だったボデータイプ毎に、モデルチェンジ時期を示しながら系統立ててまとめたものである。

- (2)「車両系統図」は、以下のように構成している。 【車両詳細情報は「トヨタ自動車 公式企業サイト」をご覧ください (www.toyota.co.jp)】
 - Ⅰ.「75 年間の系統図」(トップ画面)Ⅱ.「車両詳細情報」(各詳細情報画面)
- (3)「75 年間の系統図」について
 - 1)「各車両(モデル)毎」に、どのような「流れ」を辿ってきたか、「軌跡」を表す
 - 例)・「代」の変遷
 - ・ボデータイプの種類 ・「派生」の関係性
 - 2) 時系列で示し、時の流れを表す
 - 3) モデルチェンジのみを掲載
 - 4) 主だったボデータイプを掲載
 - 5) 主だった派生車両を掲載
 - 6) 主だった海外専用車※を掲載
 - ※海外専用車とは、日本以外の地域にて専用に設定している車両を指し、輸出車などは含まない。
- (4) 掲載している車両およびモデル数は「乗用車(約 400 台)、商用車(約 200 台)、海外専用車(約 120 台)」である。 ※ マイナーチェンジ、改良、追加、特別仕様車、特装車などは記載していない。 ※ ボデータイプでも一部記載していないものもある。
- (5) 掲載データは、2012 年 4 月末までに発売の車両および、記述は 2012 年 4 月末時点のデータである。(一部、例外もある。)

【注記】

- (1) 車両の掲載順番について
 - 1) 大きくカテゴリー毎に区切って表示

「乗用車」

「商用車」

◆ 「海外専用車」

- 2) 車両の掲載順は、基本的に、「初代」車両の「全長」の長い順とする。ただし、「2 代目」以降が、「初代」と大きく変わった場合は、それに該当 しない場合もある。
- 3) 乗用車、商用車、海外専用車を、カテゴリー毎に区切って表示

乗用車 : セダン系 / スポーツ・スペシャルティ / ステーションワゴン / トールワゴン / ミニバン / スポーツユーティリティ 商用車 : バス / 大型トラック / 小型トラック / バン / ワゴン 海外専用車 : スポーツユーティリティ / トラック (または、ピックアップ) / ミニバン / ハッチバック / セダン系 / クーペ / バス

4) ボデータイプの略称について

 SD : セダン
 HT : ハードトップ

 HB : ハッチバック
 LB : リフトバック

 CP/CV : クーペ/コンバーチブル
 RS : ロードスター

 MV/CW : ミニバン / キャブワゴン
 TW : トールワゴン

 SW : ステーションワゴン
 VN : バン

 SUV : スポーツユーティリティビークル
 1BOX : 1BOX

 TRUCK/PU: トラック / ピックアップ
 BUS : バス

- (2) 制作にあたっては、社内関係部署をふまえて検討してきた。ボデータイプのカテゴリー区分など、諸説あるが、ご了承いただきたい。
- (3) 本「車両系統図」の著作権は、トヨタ自動車株式会社に帰属する
- (4) 本「車両系統図」の複写・複製・貸与・譲渡・印刷・不正使用を禁ずる

【ご協力】

株式会社アデイ 株式会社インターソフト 竺 覚暁 株式会社 電広エイジェンシー 株式会社日本デザインセンター 株式会社 リンガライト

伊東和彦 大日本印刷株式会社 株式会社デルフィス 株式会社 電通 山崎 幹泰